

熊野古道

(三重県、奈良県、和歌山県)

注目ポイント！

「語り部」とともに体験する世界遺産熊野古道の魅力。
外国人やシニア層が安心して、一人歩きできる観光地づくり。



古道の「語り部」の利用 約400人から6,000人に増加。



熊野古道の様子

コラム

一日として同じ表情を見せない熊野の自然。ここに鎮まる王子社を結ぶ祈りの道が「熊野古道」。旅人は、花に魅せられ、森や山並みに魅せられ、くらしに魅せられて、「心と体を癒し蘇らせる」。坂本氏は、このような熊野古道で語り部として活動している。



観光カリスマ 坂本 勲生氏

これまでの経緯

- 昭和61年(1986) 本宮町語り部の会を結成する。
- 平成2年(1990) 「ふれあい紀州路歴史の道キャンペーン熊野古道ピア」を開催する。
- 平成11年(1999) ジャパンエキスポ南紀熊野体験博を開催する。
- 平成14年(2002) 語り部「十津川鼓動の会」を結成する。
- 平成16年(2004) 「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録される。
国際シンポジウム・祈りの道展を開催する。
- 平成17年(2005) 世界遺産「吉野大峯」心の道ウォークを開催する。
- 平成18年(2006) 語り部と行く世界遺産(小辺路)魅惑体験「果無ウォーク」を開催する。
語り部と行く世界遺産(大峯奥駈道)魅惑体験「玉置山ウォーク」を開催する。

主な取り組み

「語り部」による熊野古道体験

地域の団体において、歴史や自然などの熊野の森羅万象とガイドの会話術について研修を受けた「語り部」を育成。有料化を図ったことにより若い語り部が増加。夫婦で語り部、外国人のために英語を操る語り部などユニークな人材も多数いる。また、語り部と市民ボランティアで、清掃活動など古道の保存・維持に取り組んでいる。



語り部の様子



植林の様子

熊野川の景観整備

「水上の参詣道」として世界遺産に登録された熊野川流域の景観整備を図るため、官・民16団体と個人の約110人がボランティアで参加し、ヤマザクラなど約2,200本を植林。

植栽候補地の選定に予想以上の時間がかかるも、地域住民参加型の新たな観光地づくりを進めることができた。

安全安心な観光地情報の提供

熊野古道中辺路の中でも最も難所として知られる「大雲取越え」ルート的那智勝浦町エリアの古道沿いに、進行方向や番号等を付した500mピッチの標柱を設置(ローマ字併記)。古道を歩く人への情報提供と安全確保を図る。



標柱の設置作業風景

宿泊拠点の再生

「熊野」の玄関口にあたる白浜温泉、勝浦温泉において、外国人観光客やシニア層を受け入れるため、接客マナー研修を実施し、外国人向けパンフレットを作成。受け皿整備により、世界遺産観光の宿泊拠点として再生。



崎の湯

問い合わせ先

和歌山県観光連盟 Tel : 073 - 422 - 4631

十津川村観光課 Tel : 0746 - 62 - 0001(代)

熊野市観光公社 Tel : 0597 - 89 - 2229

<http://www14.plala.or.jp/kumano-kankou/>